

【小学校・中学校・義務教育学校用】

令和5年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)	
A	: 十分達成できている
B	: おおむね達成できている
C	: やや不十分である
D	: 不十分である

学校名	武雄市立若木小学校
1 前年度 評価結果の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・コロナ禍ではあったが、限られた条件に合わせて、方法を変えたり、時間を短縮したりしながら取り組むことができた。 ・学力向上については、小規模校の強みをいかして、職員間での相談や課題の共有を重ねた結果、全体的におおむね良好な結果となったが、学力の向上は今後も課題である。 ・保護者や地域の方に対して来校の人数を制限する場面が多かったが、最後のロングの集会は、人数の制限なく行うことができ、行事で児童を育てることの重要性を感じた。 ・マスク着用などの考え方の変更に伴い、コロナ以前までのやり方に安易に戻すのではなく、コロナ禍で学んだ新しい考え方で方法を検討していく必要がある。
2 学校教育目標	<p>ふるさと“若木”を愛するたくましい若木っ子の育成</p> <p>～挑戦・工夫・努力～</p>
3 本年度の重点目標	<ol style="list-style-type: none"> 1 小さな学校だからできる 安心安全で 温かい環境を創る 2 自分の夢や目標をもち、すすんで挑戦し続ける力を創る 3 地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育む

4 重点取組内容・成果指標 中間評価 5 最終評価

(1)共通評価項目				中間評価		最終評価		学校関係者評価		主な担当者
評価項目	重点取組	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	
●学力の向上	○全職員による共通理解と共通実践 ・学習内容の定着に向けた分かりやすい授業の実践	○(学校独自成果指標・任意) 学校評価アンケートによる自己評価で、「各教科の中で、自分の考えを書いたり話したりする力を育てる指導を行いましたか」の達成率が80%以上	①ノートやワークシートに自分の考えを書く時間を確保する。 ②授業の終わりに自分の考えを述べる時間を確保する。	A	「各教科の中で、自分の考えを書いたり話したりする力を育てる指導を行った。」と答えた教職員は100%であった。	A	・各担任の自己評価で、各教科の中で「自分の考えを書いたり話したりする力を育てる指導を行った」と回答した教職員は100%であった。ノートやワークシート、授業の振り返りなど、自分の考えを書いたり話したりする時間を設定することができていた。今後ますます必要になってくるかなので、継続して指導を行っていく。	A	・学習に集中して取り組み、ノートやワークシート、振り返りなど、児童自身の考えを書いたり伝えたりする時間を設定し、基本的な学習態度が確立していることが学力向上につながっている。 ・花まるタイムで時間内に4つの課題をし、早い子はチャレンジ問題まで進んでいる。 ・授業の中で、自分の考えをきちんと話したり書いたりする力は、将来重要になると思うので、授業の取り組みを評価できる。 ・児童とのコミュニケーションがうまくとれ、児童が理解している。 ・教職員回答100%達成は素晴らしい。	【わかる部会】 学力向上コーディネーター 研究主任
●心の教育	●児童生徒が、自他の生命を尊重する心、他者への思いやりや社会性、倫理観や正義感、感動する心など、豊かな心を身に付ける教育活動	○児童と保護者の学校評価アンケートの心の教育に関する項目において肯定的な評価が85%以上	・平和学習週間や人権集会、ふれあい道徳などの心の豊かな心を育む教育活動を計画的に行う。 ・花いっぱい運動などの奉仕活動を計画的に行う。	A	・平和学習週間では、折り紙作りや平和に関する絵本の読み聞かせなど平和を考える学習を計画的に実施した。 ・6月の授業参観でふれあい道徳を全学年で実施し、道徳教育の周知を図った。	A	・人権集会では、委員会を中心として計画・準備を行い、人権を守るための言葉を考えたり、仲間探しゲームをしたりして、児童らの他者を思いやる心を育むことができた。 ・委員会活動を中心に、花いっぱい運動を1月に行い、奉仕の心を育むことができた。 ・児童と保護者の学校評価アンケートの心の教育に関する項目において肯定的な評価が95%以上だった。	A	・人権集会の企画運営を通して、児童の自他を思いやる心を育てている。また、花いっぱい運動を実施することなどにより、奉仕の心を育むことができています。 ・人権問題が多様化している現代、授業を通して考えていくことは重要だと思っており、継続的な取り組みをお願いしたい。 ・委員会活動、集会活動、道徳教育などを通して豊かな心の教育を行い、成果をあげている。 ・朝の挨拶がよくできている。	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当
	●いじめの早期発見、早期対応に向けた取組の充実	○職員や保護者の学校評価アンケートのいじめ防止などの項目において肯定的な評価が85%以上	・心のアンケートを年4回実施し、いじめの早期発見対応に努める。 ・児童連絡会やケース会議を定期的に行い、職員で共通理解をし、必要に応じて組織的に対応する。	A	・児童連絡会を隔週にし、ケース会議を行うことで、職員の共通理解を図り、組織的に対応することができた。 ・心のアンケートを実施後、担任による面談にて児童の心身の状態に対応した。「今の心の様子」のアンケート項目で「楽しい」「ふつう」と回答した児童は94.9%であった。	A	・心のアンケートを1月に実施し、アンケートを基にした面談を行い、児童の心のケアを図った。 ・職員や保護者の学校評価アンケートのいじめ防止などの項目において肯定的な評価が90%以上だった。	A	・アンケートやケース会議を計画的に行い、いじめの早期発見・対応を図ることができている。 ・いじめはあってはならない。いじめの兆候があれば、早期認知・対応を行えるよう、今後も学校全体で取り組んでいきたい。 ・いじめの把握は非常に難しい面があるが、日頃の児童とのコミュニケーションを大切にし、継続的な取り組みをお願いしたい。 ・児童が相談しやすい環境をつくれば、よりよく対応できると思う。	【かんしゃ部会】 道徳教育推進教員 人権・同和教育担当 教育相談担当
	●◎児童生徒が夢や目標を持ち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動。	●「先生はあなたのよいところを認めてくれていると思う」と回答した児童生徒85%以上 ●「将来の夢や目標をもっている」について肯定的な回答をした児童生徒85%以上	○(学校独自重点取組・任意)	・校内研究の特別活動を中心とした学級活動や委員会活動、クラブ活動を計画的に行い、児童の自主性を育む。 ・異学年交流を行い、児童の豊かな人間関係を育む。 ・キャリアパスポートを活用し、自分について考えさせる機会を設ける。	A	・特別活動の研究授業や講師を招聘した研修などを計画的に実施し、児童らの自主性を育む教育を実施してきた。 ・月に1回程度、朝の時間に6年生を中心に縦割り遊びを実施し、児童の豊かな人間関係を育んだ。 ・キャリアパスポートの活用方法は、学年によって様々であるため、校内で取組状況を把握し、計画的に行うようにしたい。	A	・校内研究として取り組んだ特別活動の授業の成果や課題を明らかにし、児童が自主的・実践的に取り組む授業の在り方を共通理解することができた。 ・異学年交流を年10回以上実施し、児童の自主性を育むことができた。 ・学年末には、全学年でキャリアパスポートの記入を行い、次年度に向けての目標をもたせることができた。 ・児童と保護者の学校評価アンケートの「夢や目標」に関する項目において肯定的な評価が90%以上だった。	A	・小学生から将来の目標、夢をもつことは大切なことであり、児童の自主性を育むとともに、夢、目標をもたせる取り組みをお願いしたい。 ・将来の夢をもつキャリアパスポートの作成は評価できる。 ・特別活動の充実や、児童の活動意欲を高めたり、自主性を育てたりすることができている。 ・職員が子どもたちに寄り添い、子どもを大切にしている。
●健康・体づくり	①「運動習慣の改善や定着化」 ②「望ましい生活習慣の形成」 ③「望ましい食習慣と食の自己管理能力の育成」	●①進んで運動に取り組み、体育授業や体を動かすことが楽しいという児童90%以上 ●②家庭と連携して「早寝、早起き、朝ご飯」を徹底し、よりよい生活リズムが定着している児童90%以上 ●③「健康に良い食事をしている」児童90%以上	・体育的行事や授業の工夫に加え、スポーツチャレンジの取り組みの促進を図る。 ・県からの朝食摂取調査(6月、11月)等を活用して、よりよい生活リズムの定着に向けての啓発を行う。 ・食に関する指導や給食時間を充実させ、学年に応じた食に関する力が身に付くよう系統的に指導を行う。	A	・外遊びをするように運動委員会が呼びかけをしたり全校でスポーツチャレンジに取り組んだり、運動の促進を図ることができた。 ・7月の生活アンケートで、「10時まで寝ている」と回答した児童が88.6%、「朝ご飯を毎日食べる」と回答した児童が86.1%とおおむね目標を達成している。今後も継続して指導を行いたい。 ・7月の生活アンケートで「健康に良い食事をしている」と回答した児童は89%であった。今後も食に関する力が身につくように指導していきたい。	A	・学校評価アンケートの「運動の楽しさ」に関する肯定的な回答が90%であった。来年度は、学校行事や委員会活動を通して、体を動かす楽しさを感じられるような活動を取り入れていく。 ・学校評価アンケートの「生活習慣」に関する項目では、肯定的な回答が84%であった。よりよい生活リズムがさらに定着するように、委員会などを活用し、継続的な指導を行う。 ・給食週間において校内放送をしたり、給食委員会の発表などを行った。給食の残量はほとんどなく、時間内に食べ終わる児童がほとんどである。	A	・国スポ、全障スポ開催を契機に、児童が進んで運動に取り組むよう、継続をお願いする。 ・外遊びの奨励やスポーツチャレンジを積極的に取り、体力づくりに資することができた。 ・運動会に向けた取組が、子どもの自主性を重んじ、のびのびしている様子が見える。 ・家庭との連携を図り、よりよい生活リズムづくりができています。 ・食育は大切であり、大きく心の教育にも影響すると思われるので、工夫しながら取り組んでいきたい。 ・体育主任 保健主事 給食主任 学校栄養職員	【きたえる部会】 体育主任 保健主事 給食主任 学校栄養職員
	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	・
	●業務改善・教職員の働き方改革の推進	●業務効率化の推進と時間外在校等時間の削減	●教育委員会規則に掲げる時間外在校等時間の上限を遵守する。	・組織力で、校務分掌担当業務量の軽減を図る。 ・勤務時間内で対応できる業務改善を図る。	B	・各部会のリーダーを中心に、調整を行いながら各部で業務量軽減化を図った。 ・時間外在校等時間は、平均23時間であった。	B	・「業務の軽減化・効率化」に対する職員の肯定的な回答は85%であった。 ・時間外在校等時間は、平均23時間(昨年度比1時間減少)であった。	A	・働き方改革について職員全体で組織的に取り組み、業務の軽減化ができています。 ・限られた中で、効果的に万全を尽くされているようだ。 ・職員のワークライフバランスの推進は、児童の資質向上のためにも重要だと思っており、取組の継続をお願いしたい。 ・業務の効率化を進めながら、何が必要かを見極めることが必要。
○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・会議を厳選し、回数を減らす。 ・ICTを有効活用し、会議の時短を図る。	A	・毎週の職員連絡会を隔週にして、回数を半分にした。 ・ICTを活用し、連絡事項や協議事項などを、事前に共有することで、会議の時間を予定時刻前に終えることができています。	A	・「会議を効率的に進めるよう努めた」に対する職員の回答は100%であった。 ・会議の時間を予定時刻前に終えることができた。	A	・会議の厳選やICT活用を図り、働き方改革の改善を行っている。 ・会議を効率的に進めるために、ICT活用は今後ますます重要になると思うので、継続的な取り組みをお願いしたい。	管理職
(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										
評価項目	重点取組内容	成果指標(数値目標)	具体的取組	進捗度(評価)	進捗状況と見通し	達成度(評価)	実施結果	評価	意見や提言	主な担当者
○開かれた学校づくり	○(学校独自重点取組・任意) 保護者や地域に信頼される学校づくり	○(学校独自成果指標・任意) 「学校の様子を伝えている」について肯定的な回答90%以上 ・教育効果を高める地域との連携	・定期的な学校だよりや学級通信等を活用して、情報発信を積極的に実施する。 ・学校と青友会、地域との連携のもと、新学習指導要領に沿った活動を推進する。	B	・学校だよりや、必要なメール配信等、情報発信を積極的に実施できた。 ・全評議員会や学校運営協議会を計画的に開催することで、地域との連携を推進した。	B	・「学校の様子を伝えている」に対する肯定的な回答は90%であった。 ・全評議員会や年間5回、学校運営協議会を年間3回実施した。	A	・各種の行事などに、青友会や地域の人材を活用して教育効果をあげている。 ・学校運営協議会の中で、各々の意見を聞き、気付けことがあった。 ・学校だよりやメール配信などでの情報発信や、コロナ禍ではできなかった行事等で、地域連携がしっかりとできていると思う。 ・今後の青友会行事などの取捨選択は、しっかりと意見交換をしながら進めていければと思う。	管理職
○	○(学校独自重点取組・任意)	○(学校独自成果指標・任意)	・	・	・	・	・	・	・	・

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志を高める教育

5 総合評価・次年度への展望	<ul style="list-style-type: none"> ・全職員で情報共有を常に行い、日頃の児童とのコミュニケーションを大切に、ケース会議等で対策を講じながら、児童にとって安心安全で温かい環境を創ることができた。 ・学校目標のサブテーマに「挑戦・工夫・努力」を掲げ、児童が夢や目標をもち、その実現に向けて意欲的に取り組もうとするための教育活動を行いおおむね良好な結果となったが、今後もさらに充実を図り、児童の活動意欲を高めていきたい。 ・コロナ禍で学んだ新しい考え方で、方法を創意工夫しながら各種行事を行うことができ、地域の人材を活用することで地域の良さを学び、地域を愛する子どもを、地域と共に育むことができた。
----------------	--